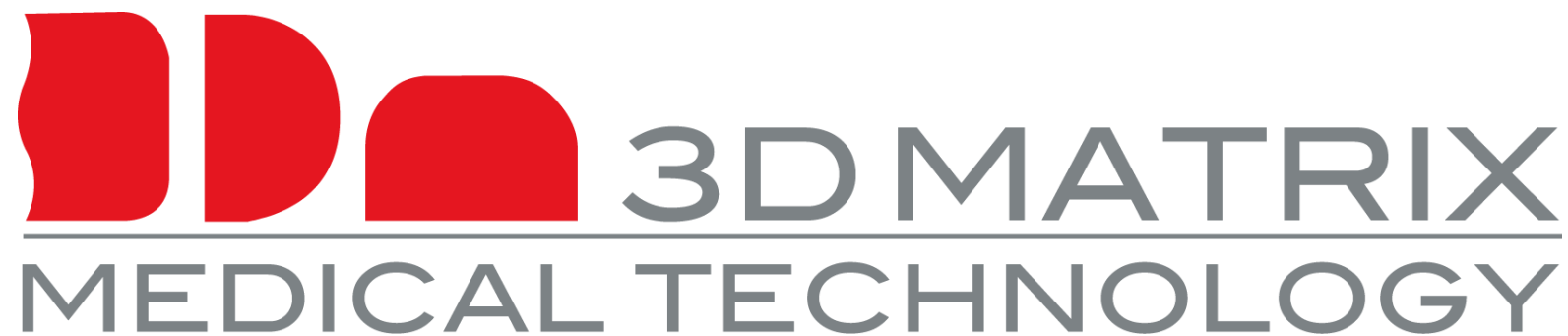




2025年度第3四半期決算説明会

株式会社スリー・ディー・マトリックス(証券コード:7777)

2026年3月

2025年度見込み 売上成長率

+43%

2025年度見込み 営業利益

9.6億円

増収増益、黒字化計画が着実に進捗

- ◆ 2025年度通期見込売上高は99億円（前期比+43%）。米国の高成長が継続。
- ◆ 営業利益は9.6億円（計画比+5.6億円）。営業利益率9.7%。大幅な増益を達成。
- ◆ 業績予想を上方修正。

<前期同期比>（単位：百万円）

	（前期） 通期実績	（当期） 修正前 通期見込み	（当期） 修正後 通期見込み	修正前後 増減率	修正後 前期同期比
売上高	6,934	9,283	9,944	+7.1%	+45.04%
営業利益	△1,156	400	960	+140.2%	-

1. 財務状況

2. 開発状況

3. ご参考:会社紹介

1. 財務状況

2. 開発状況

3. ご参考:会社紹介

損益計算書の概要(第3四半期)

(単位:百万円)	2025 Q3	2024 Q3	増減
売上高	7,346	5,069	+2,277
売上原価	1,645	1,440	+205
粗利益	5,700	3,619	+2,081
粗利率	78%	72%	+6%
研究開発費	469	395	+74
販管費	4,523	3,829	+694
営業利益	707	△606	+1,313
経常利益	2,744	△1,381	+4,125
当期純利益	2,354	△1,393	+3,747

◆ 売上高は前期同期比約45%増。

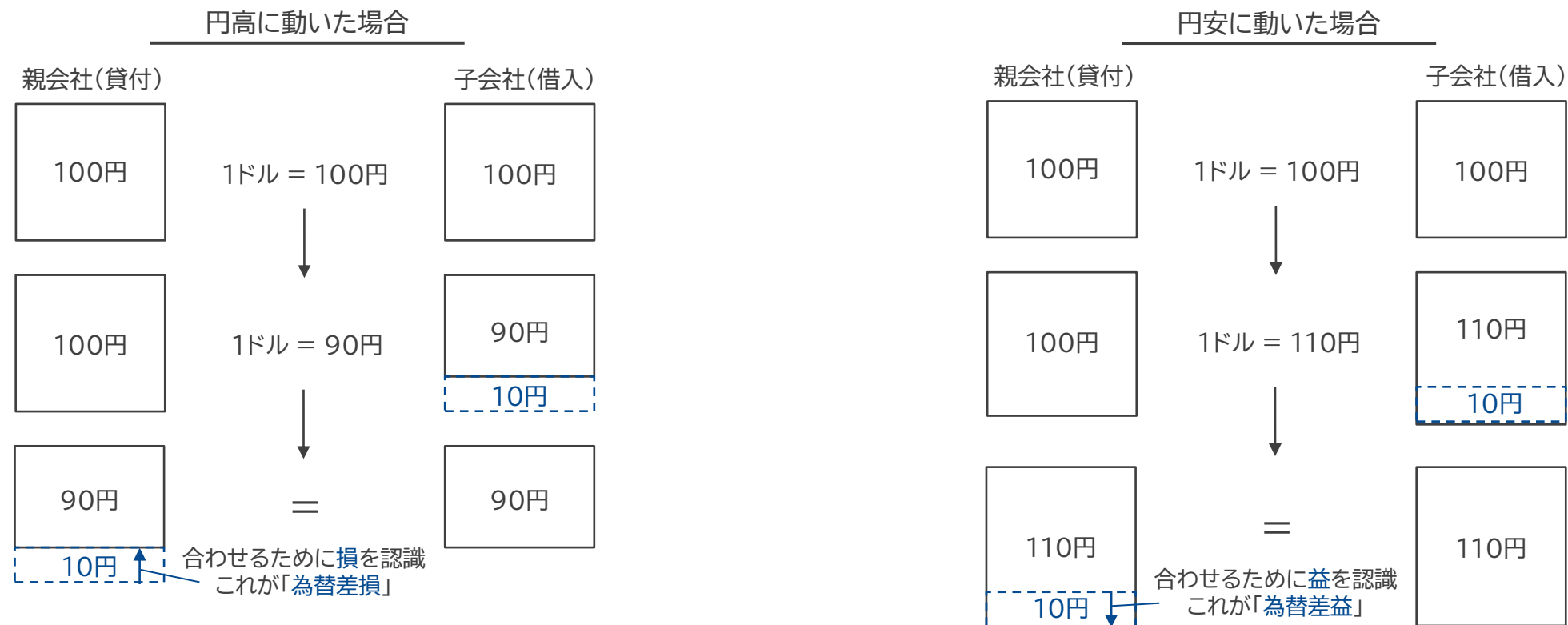
◆ 粗利は前期同期比約57%増。

◆ 営業利益は前年同期比約13億円を改善し、約7億円で着地。

◆ 円安による子会社貸付金等の為替差益により、経常利益以下も黒字。

(再掲)為替差損益が発生する仕組み

子会社に対し外貨建てで貸付をしているため、為替レートの変動に応じて貸付金の金額が変動する。
変動した金額を為替差損益として認識している。そのため経常利益以下に為替に連動した変動が生じる。



財務諸表上の損益であり、事業上のコストの増減やキャッシュイン/アウトが発生するわけではない
→ 営業利益をより重視して頂きたい

貸借対照表の概要(第3四半期)

(単位:百万円)	2025 Q3	2024 Q3	増減
流動資産	7,493	6,945	+548
現金及び預金	2,100	1,981	+119
売掛金	2,128	1,702	+426
たな卸資産	2,900	2,964	△64
その他	364	298	+66
固定資産	79	91	△12
資産合計	7,573	7,037	+536
流動負債	2,063	1,411	+652
借入金	300	300	0
その他	1,764	1,111	+653
固定負債(転換社債等)	329	2,983	△2,654
負債合計	2,393	4,395	△2,002
純資産	5,180	2,641	+2,539
負債・純資産合計	7,573	7,037	+536

◆ 売上増に伴い売掛金が増加。

◆ 転換社債の転換が進み固定負債は減少。

◆ 純資産は約25億円の増加。

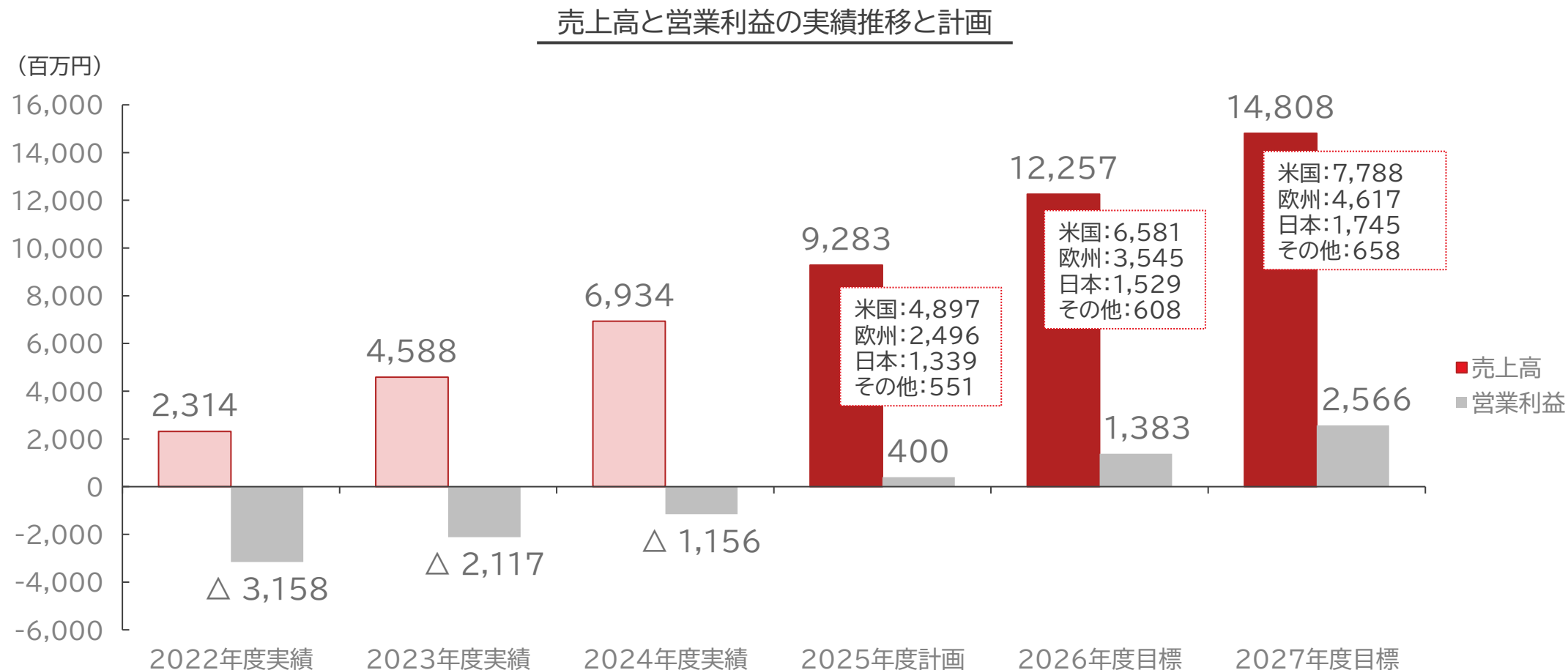
ファイナンスの状況

第9回無担保転換社債型新株予約権付社債(CB)は転換が進み2026年2月26日に残高がゼロに。

- ◆ 第9回CBは2026年2月末までに全ユニット転換
これによりすべてのCBの残高がゼロに。
- ◆ 第36回新株予約権の一部行使により、
2025年12月に約1.2億円を調達。
- ◆ 第36回新株予約権の一部行使により、
2026年3月に約2.5億円を調達。

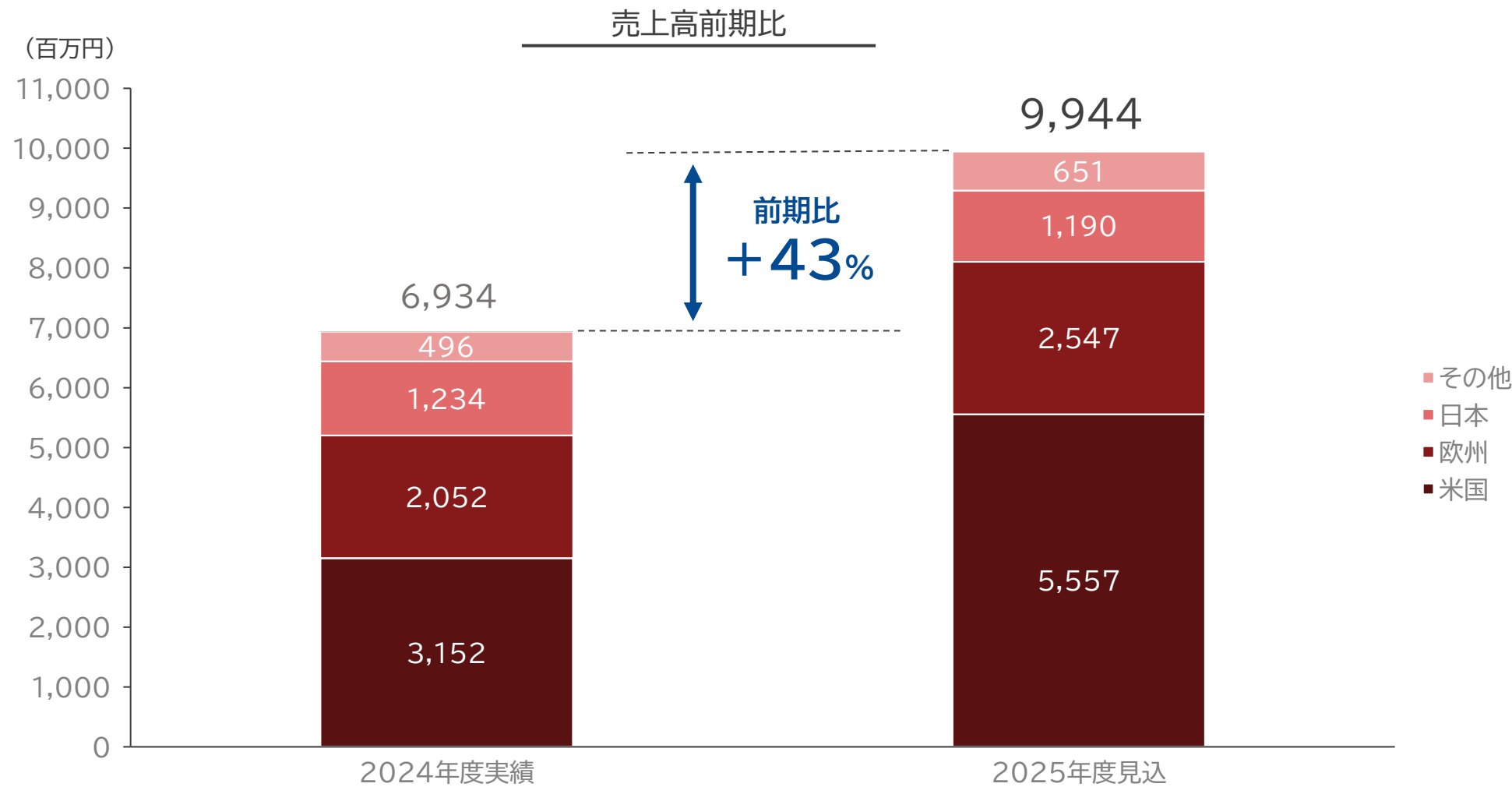
(再掲)実績推移と3か年の計画と目標

2025年度での営業黒字化を計画、その後、営業利益を拡大させていく目標。



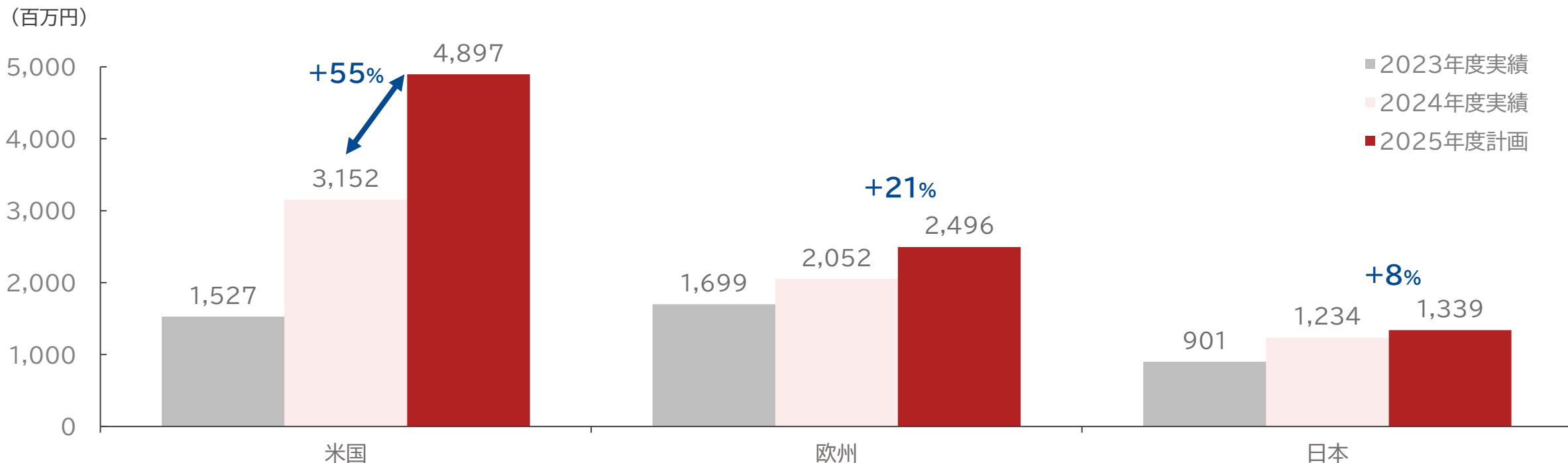
売上高前期比(2025年度見込み)

特に米国での高成長が貢献し、前期比で売上は43%増となる見込。



(再掲)エリア別の売上計画

過去の成長も踏まえ合理的な売上計画を策定。今期も米国が成長に大きく貢献。



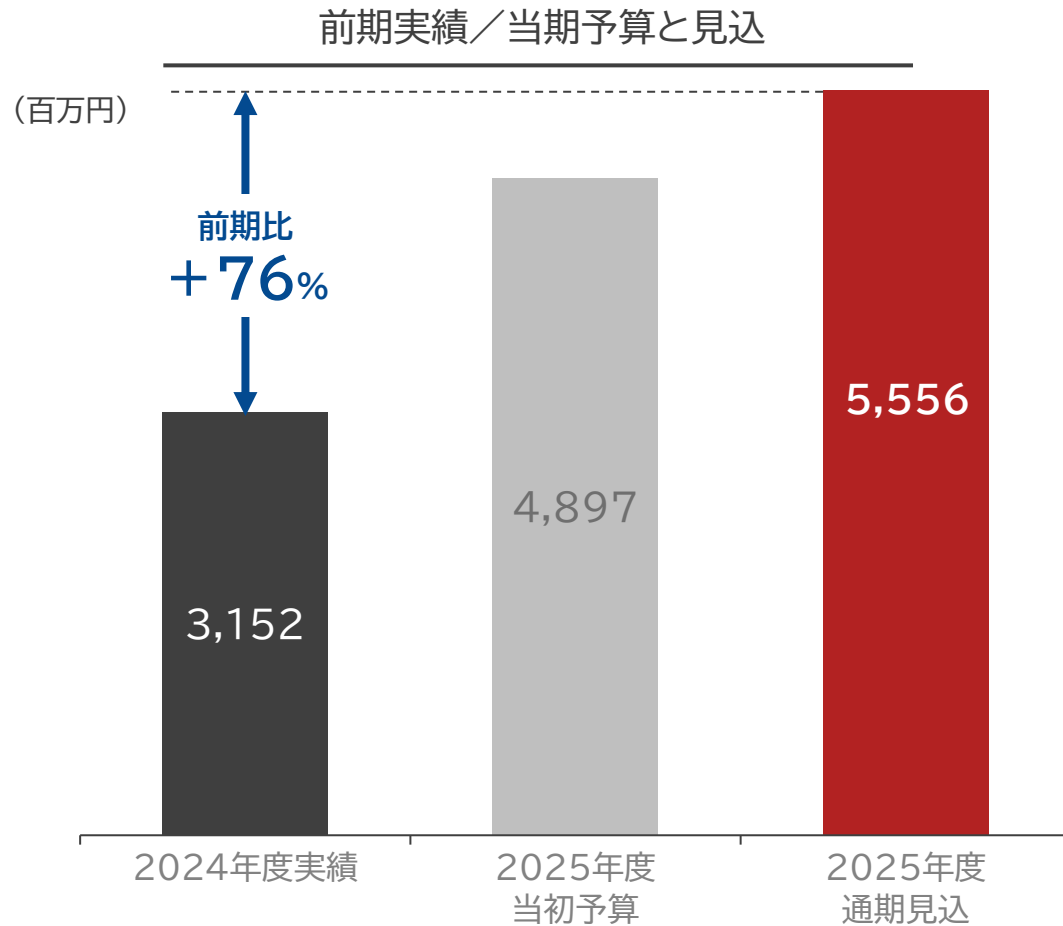
- 今期成長のための営業リソースは拡充
- 営業人員当たり売上高が維持される前提
- いまだ数倍の成長余地あり

- 大きな営業リソース追加を行わない
- ドイツなど2024年度に伸びなかった国は成長を見込まない
- 耳鼻咽喉科、泌尿器科領域での成長を継続させる

- 大規模病院のカバレッジは既に高い
- 新規顧客獲得による成長は縮小
- 既存顧客の使用本数を増加させる

販売活動の進捗：米国

GI、ENT共に引き続き順調な成長を継続。



消化器内視鏡領域(GI)

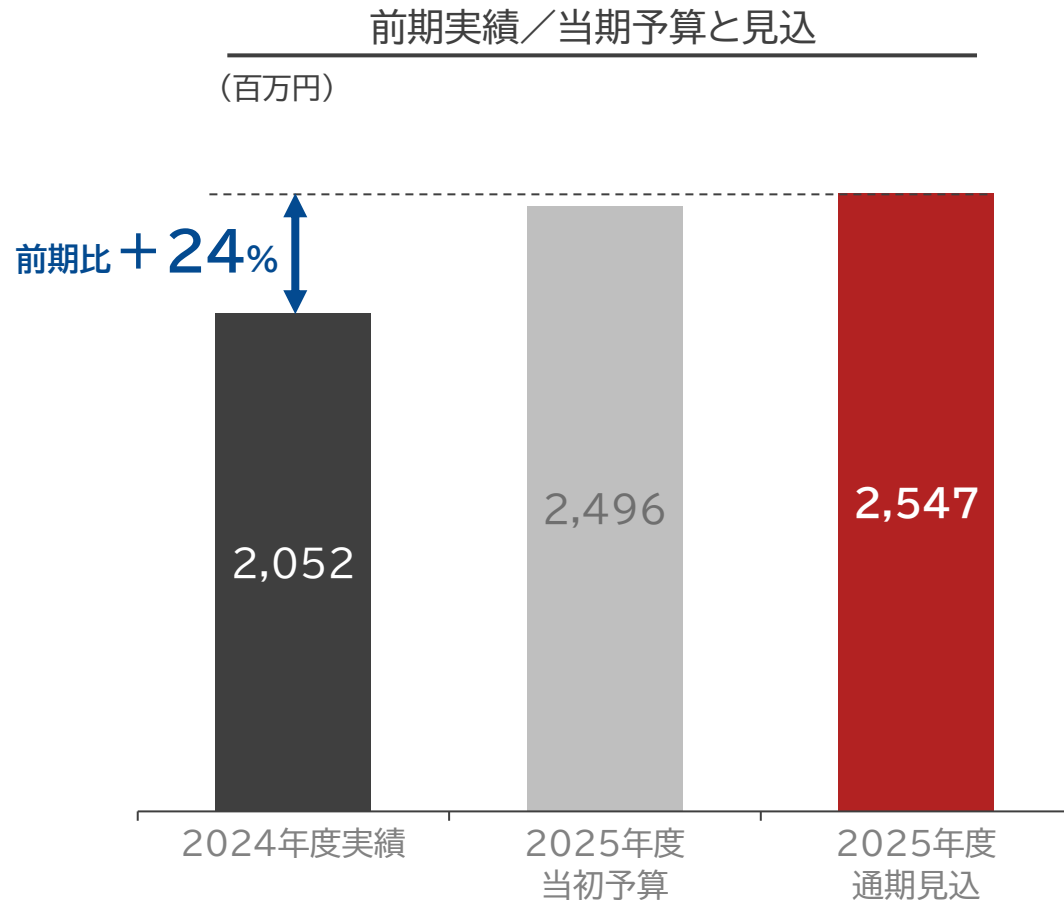
- Q3は季節性により成長が多少鈍化する傾向にあるが、今期は新規顧客獲得、既存顧客での製品使用拡大により成長勢いが継続
- 全般的な難易度が徐々に上がっている状況に対応して今期取り組んでいる営業人員のレベル向上、エビデンスの拡充、小児セグメントへの注力を継続
- 依然として新規開拓の余地は大きい状況

耳鼻咽喉科領域(ENT)

- 予算を上回り既に年間予算を達成している状況、好調を維持
- 引き続き規模の大きな市場・アカウントにフォーカスし、営業効率を維持した成長を継続している状況

販売活動の進捗：欧州

耳鼻咽喉科と泌尿器科での販売が大きく進み、昨年同期から24%の成長を達成。新製品ローンチに向けて準備中



消化器内視鏡領域(GI)

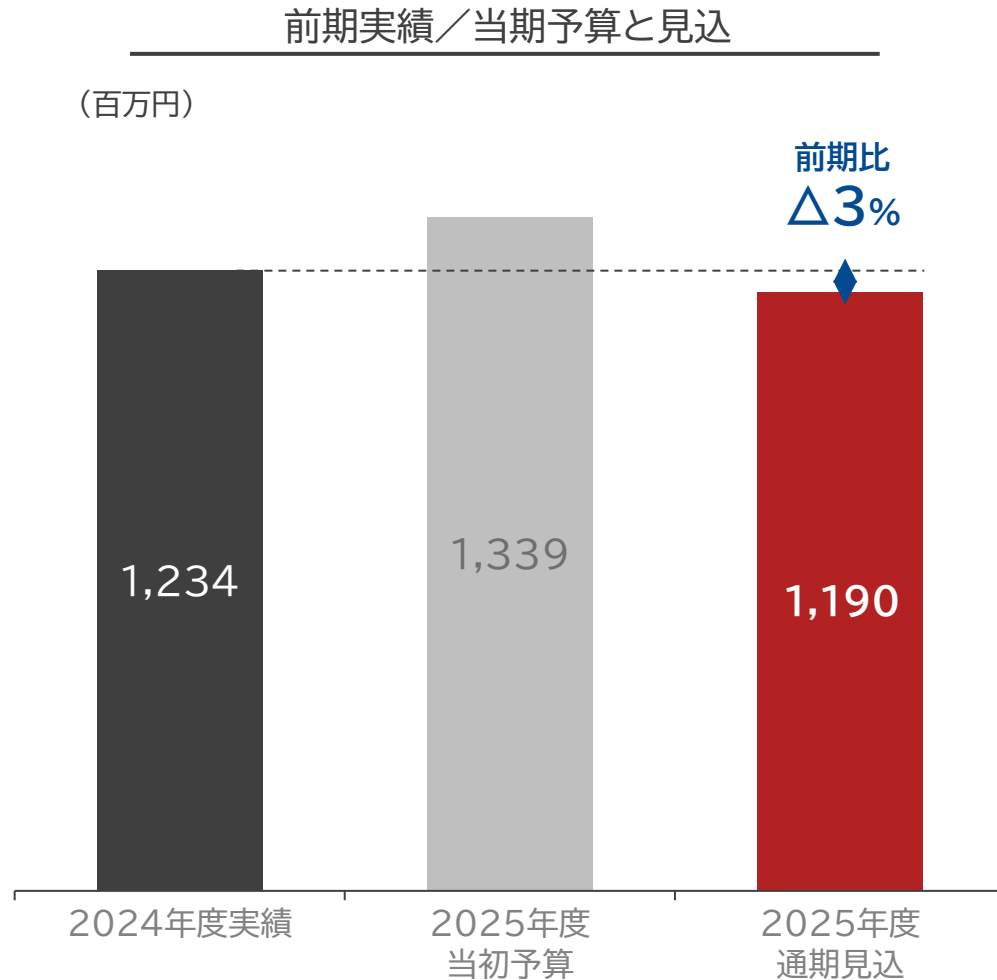
- 英愛では代理店と共同でPOPSの結果を周知徹底して回することで、各病院での使用量が増え、成長が加速
- 独では改善施策が部分的に機能しているが、微増が続く

その他の領域

- 耳鼻咽喉科では、頭頸部領域の使用量を更に増加させる施策が奏功し成長が加速
- 泌尿器科では、放射性膀胱炎が入り口となり、前立腺肥大、腎臓部分切除などにも使用を拡大
- 新製品承認に伴い、脳神経外科での説明会を開始。販売開始に向けて準備が進んでいる

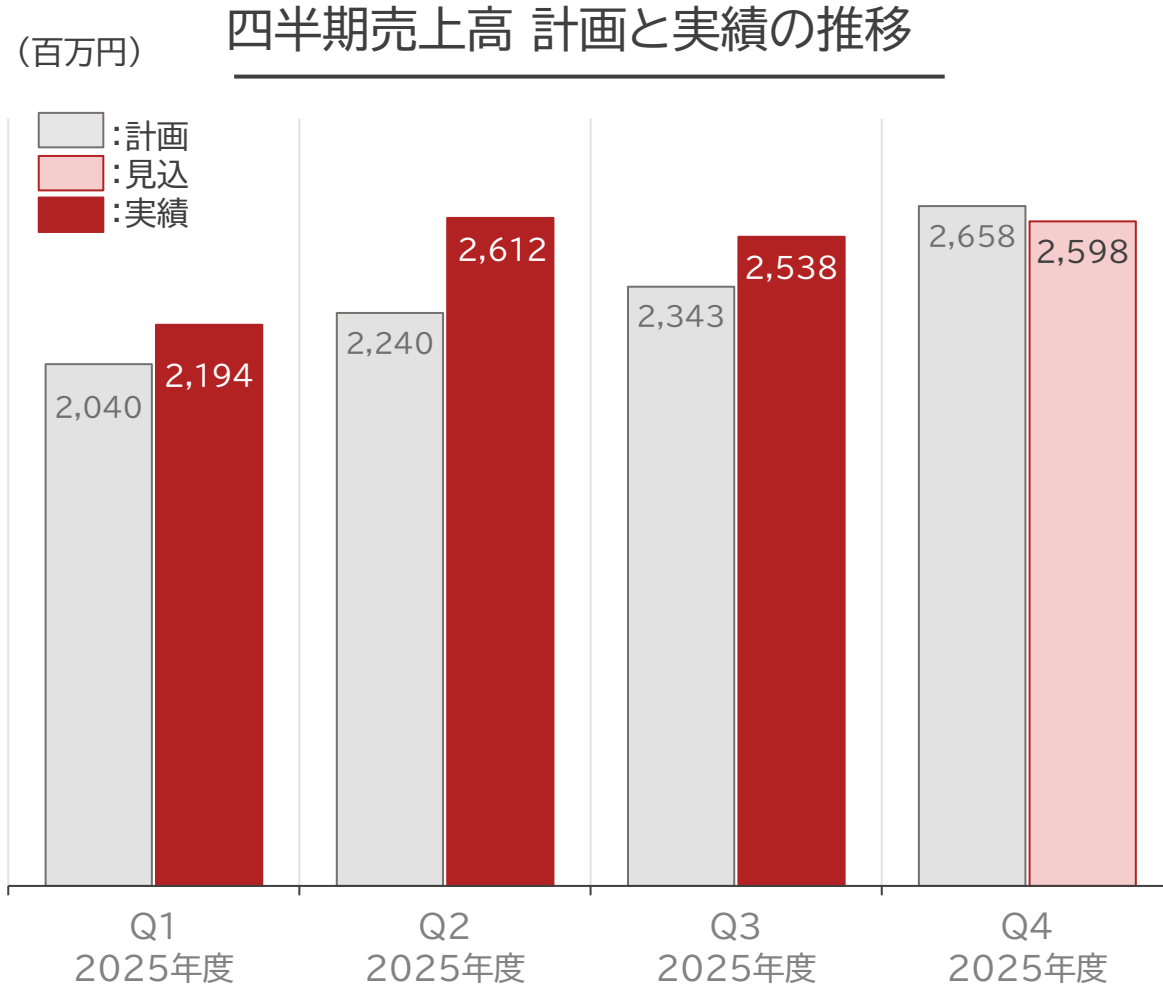
販売活動の進捗：日本

保険請求の問題で病院が買い控え、通期として前年を下回る見込み。



- 当社製品の市場への浸透が進んでいるため、新規獲得顧客数が減少してきており、また、新規顧客の規模も小規模化している
- 病院からの保険請求が却下される事例が一部都道府県で散見され始めたため、病院での買い控えが発生
- それにより下半期の売上は減少に転じる見込みであり、通期として前年を下回る結果が予測される

四半期売上高(2025年度見込み)



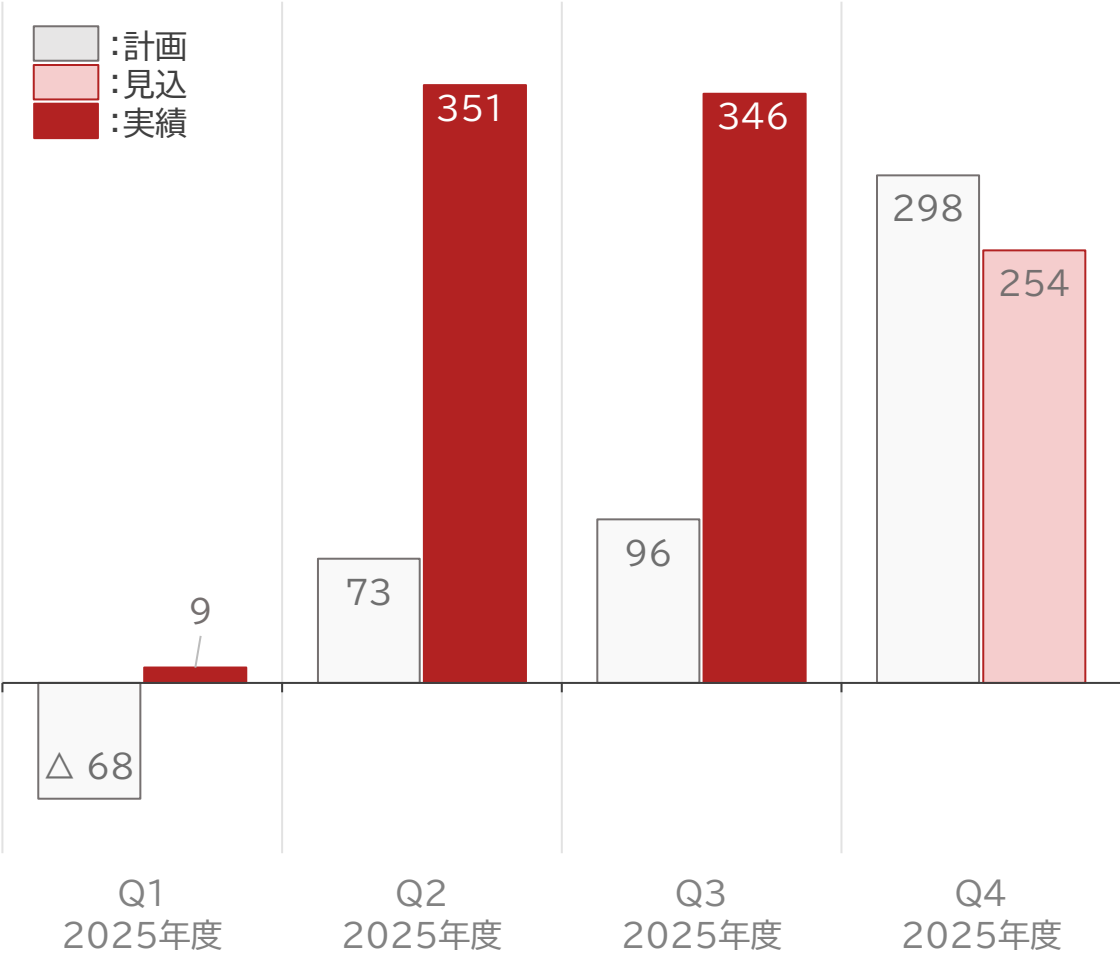
対計画(累計)

+7%

- ◆ 米国での営業展開が順調に進捗しており、累計売上高は対計画で6.6億円、7.1%の上振れ。

四半期営業利益(2025年度見込み)

(百万円) 四半期営業利益 計画と実績の推移



対計画(累計)
+ 6億円

◆ 売上の増加に伴って、累計営業利益は約5.6億円(2.4倍)計画を超過し大幅増益で着地見込み。

1. 財務状況

2. 開発状況

3. ご参考:会社紹介

直近で追加された／現在アクティブなプロジェクト

プロジェクト	ニーズと特徴	状況
小児の心臓手術の止血	小児向けに承認を受けている安全な止血材がない。塗布後に膨張せず、術後癒着が抑えられ、狭い領域でも視野が確保されることが臨床ニーズ。ピュアスタットは第一候補になりうる。	欧州、米国で承認申請準備中、欧州における臨床データ収集終了、解析中。
口腔咽頭の止血	ピュアスタットで止血することで、焼灼止血に起因する組織障害が減り、術後の痛み軽減、手術部位に留置したドレーンからの排液量が減少し早期の抜管、早期の退院が可能。病院において大幅なコスト削減となりうる。	欧州において販売中。論文公開済。米国申請データ取得のための臨床研究を実施中。
オスラー病(HHT)の止血(鼻)	オスラー病は遺伝性の疾患で約8割は繰り返す鼻血をきたす。鼻血の止血処置は都市部の病院で対応するため、地方に住む患者は長時間かけて通う必要がある。在宅医療にてピュアスタットを用いることにより、患者QOLを向上させる。	欧州において臨床研究を準備中 米国においては既に承認を取得し販売中、十分な有効性が確認された場合には、HHT治療用製品としての申請を予定している。少数例のデータについて論文発表済。 精度の高いデータを取得するためRCT計画中。
生検後の止血	経内視鏡の生検鉗子による組織採取では肺等部位によって出血した場合、有効な止血手立てがなく十分なサンプルの取得が困難。ピュアスタットはこれら止血困難な部位にて使用可能であり十分量のサンプル取得を可能とする。	米国承認申請準備中。
前立腺肥大手術の止血	ロボット手術で肥大部を削る際に出るウー징グの経尿道カテーテルによる止血。焼灼を減らすことにより術後に男性生殖機能を低下させることを防げる。	欧州で販売中。欧州で論文準備中(米国承認申請のため)。米国にて承認申請準備中

直近で追加された／現在アクティブなプロジェクト

プロジェクト	ニーズと特徴	状況
脳外科における止血 (次世代止血材)	経鼻の内視鏡による脳手術において、焼灼以外で使える唯一の止血材となる可能性。当社が独自に開発した新規ペプチドを用いる。	2025年12月に欧州にて承認取得。脳神経外科、消化管、心臓血管、実質臓器等、複数領域において術中止血の適応を取得。米日での承認申請データ取得のためPMCF(市販後調査)を計画中。
内視鏡用粘膜下注入材 (ピュアリフト)	消化器内視鏡的に腫瘍を切除する際、病変部を挙上させる目的で粘膜下に注入する。粘膜下注入後にゲル化するため、注入しやすく、治療中の粘膜切開・剥離によっても流出しにくいいため、腫瘍を切除しやすくなる。注入量や注入回数も減少できる可能性があり消化器内視鏡治療の質の向上に貢献できる。	薬事承認時の製造所との契約解除により、現在販売を中止している。新規製造所と契約締結済。製造開始に向けて準備中。米国において申請準備中。
放射線直腸炎の治癒	放射線治療の副作用。難治性の潰瘍と出血。現在は治療法がないアンメットの状態。ピュアスタットを塗布することで潰瘍の治癒が観察されている。	米国においては承認済で販売中。欧州の内視鏡学会で論文発表済。欧州ガイドラインにピュアスタット追加済。欧州での承認を目指し、欧州で臨床研究において症例蓄積中。
放射線膀胱炎の治癒	放射線治療の副作用。難治性の潰瘍と出血。現在は治療法がないアンメットの状態。ピュアスタットを塗布することで潰瘍の治癒が観察されている。	欧州で実施された臨床研究データが論文発表済。米国にて前立腺の止血と併せて承認申請予定。

直近で追加された／現在アクティブなプロジェクト

プロジェクト	ニーズと特徴	状況
炎症性腸疾患の粘膜の治癒	消化管の難治性炎症。原因不明で、一度発症すると再燃と寛解を繰り返し、生涯治療が必要となる特定疾患。現在多数の抗炎症剤が用いられているが、粘膜を治癒することで治療効果があがる可能性。ピュアスタットで粘膜の治癒を目指す。	米国にて臨床及び基礎データの収集を進め、ピュアスタットの作用機序の解明および治癒効果を検証する。群馬大学で症例組み入れ中、 6例終了 。
粘膜の創傷治癒	消化管、尿道、膀胱、鼻腔等の粘膜の創傷治癒材としての有効性はこれまでに様々なスタディで確認されている。薬事承認を得ることで拡販につなげ、また難治性炎症のさらなる症例蓄積につなげる。	米国はFDAとの協議により申請カテゴリーを510K申請からDe Novo申請に変更して再申請準備中。 欧州にて2026年3月に承認申請済 。
放射線治療用吸収性組織スペーサ	前立腺がんや子宮がんの放射線治療の際に、直腸へのダメージを減少させることを目的として、直腸と前立腺や子宮の臓器間に経皮的に注入される。当社ペプチドの生体分解性と高い生体適合性がニーズにマッチすると考えられる。特に子宮がんで注入可能なスペーサは国内未承認であり、早期の開発が待たれている状況。	日本で大学と共同研究中。動物実験終了。臨床応用検討中。
食道狭窄予防	予防方法の確立していないESD後食道狭窄に対して、内視鏡的塗布による、防止効果を実証。後出血や癒着による創傷治癒の遅延も抑制。	欧州においてレジストリー実施中。広島大学で臨床研究患者20例の組入れ終了、解析後、 論文投稿済 。

直近で追加された／現在アクティブなプロジェクト

プロジェクト	ニーズと特徴	状況
嚥下障害予防	咽頭癌の抗癌剤/放射線治療後に実施する内視鏡下咽喉頭手術後の嚥下障害はQOLの悪化を招くが予防方法が存在しない。この嚥下障害に対し、内視鏡的塗布による予防効果を目指す。	広島大学、関西医科大学において特定臨床研究実施中。
口腔粘膜炎	がん治療における化学療法、放射線療法、および造血幹細胞移植で発生する口腔粘膜障害は著しくQOLを低下させる。ピュアスタートにて予防及び治療が期待できる。	米国では承認取得済で販売中。臨床研究計画。日本において臨床応用検討中。
心筋機能低下の回復(再生)	注入型の心筋機能回復デバイスとしての開発を目指し、当社ペプチドにより心筋再生の足場環境を構築するとともに、幹細胞および成長因子タンパク質との混合注入による心筋再生の促進を確認した。	米国ハーバード大学より論文公開済。
骨充填材(再生)	当社ペプチドを骨再生の足場材料とし、患者本人の体液由来の成長因子を保持させることで低侵襲かつ注入可能な骨再生充填剤としての開発を目指す。歯槽骨再建にとどまらず、腫瘍切除後などの大型な骨欠損への再生材料を目指す。	既承認の骨充填材との併用も可能な移植担体として、米国での承認申請準備中。
DDS (既存薬剤のスローリリース)	当社マテリアルを抗生物質やステロイド等の薬剤と混合することにより、持続的な薬剤放出が期待できる。適用範囲については耳鼻咽喉、消化管、心血管、皮膚領域等多岐に渡り、巨大な市場ポテンシャルを有する。	非臨床試験を進行中であり、幅広い薬剤との併用が可能なドラッグデリバリー担体として、米国にて種々の領域について承認申請検討中。

直近で追加された／現在アクティブなプロジェクト

プロジェクト	ニーズと特徴	状況
乳がんを対象としたsiRNAのデリバリー	がんの悪玉とされる「がん幹細胞」を抑制するsiRNAを、当社ペプチドでドラッグデリバリーすることで、腫瘍縮小だけでなく乳がんの再発や転移抑制にも寄与することも期待して開発中。国内治験において、ヒトへの安全性と腫瘍抑制メカニズム発揮を確認。	全身投与に最適化したDDSペプチドを開発中。トリプルネガティブ乳がんにおいて特に予後の悪いフェノタイプと、RPN2発現プロファイルの相関解明に向けた研究の実施を検討中。
悪性胸膜中皮腫を対象としたmiRNAのデリバリー	アスベスト(石綿)に暴露された後、数十年の潜伏期間を経て発症するがん。症例数は向こう10年間増え続けるとされている。発症後は薬剤療法に決め手がなく、非常に侵襲性の高い外科手術をしても予後が悪い。マイクロRNA(miRNA)を、画期的新薬として当社ペプチドでドラッグデリバリーして治療する。	導出先のPURMX社によるグローバルPhase1/2治験準備中。新たに国内において頭頸部癌に対する治験を実施中。
ワクチンのデリバリー	当社ペプチドと抗原(タンパク質あるいはmRNA)を複合した徐放作用をもつワクチンで、抗体価の上昇、単回投与での抗体獲得、炎症抑制に基づく副作用の低減をめざす。さらに、内包した抗原の安定性を高め、室温保存可能なワクチンとして輸送、貯蔵でのコールドチェーンを不要にできることも期待。	米国のワクチン開発企業、北海道大学と共同研究中。

2025年度見込み 売上成長率

+43%

2025年度見込み 営業利益

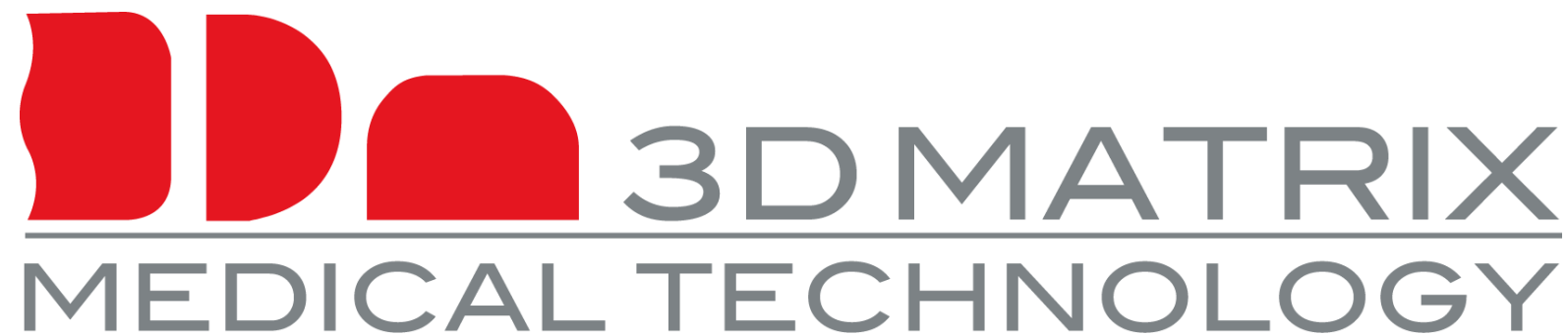
9.6億円

増収増益、黒字化計画が着実に進捗

- ◆ 2025年度通期見込売上高は99億円（前期比+43%）。米国の高成長が継続。
- ◆ 営業利益は9.6億円（計画比+5.6億円）。営業利益率9.7%。大幅な増益を達成。
- ◆ 業績予想を上方修正。

<前期同期比>（単位：百万円）

	（前期） 通期実績	（当期） 修正前 通期見込み	（当期） 修正後 通期見込み	修正前後 増減率	修正後 前期同期比
売上高	6,934	9,283	9,944	+7.1%	+45.04%
営業利益	△1,156	400	960	+140.2%	-



ご清聴ありがとうございました

1. 財務状況

2. 開発状況

3. ご参考:会社紹介

MIT発ベンチャー企業

コア技術である「自己組織化ペプチド技術」は、マサチューセッツ工科大学(MIT)の研究者により、1990年代に発明された。当社の前身となる3-D Matrix(米国法人)はMITとMITの研究者が2001年に創業。

■会社名

株式会社スリー・ディー・マトリックス

■設立

2004年5月

■上場取引所

東証グロース市場(証券コード:7777)



■事業内容

自己組織化ペプチドをプラットフォームとしたグローバルな医療機器の開発、製造、販売

■代表取締役社長

岡田 淳

■事業所

日本・アメリカ・イギリス・フランス・オランダ・
オーストラリア・シンガポール

- Shuguang Zhang (*Head, Molecular Architecture Group, MIT*)
- Alexander Rich (*Professor, Biophysics, MIT and Harvard Medical School*)
- Robert S. Langer (*Professor, Chemical Engineering, MIT*)
- etc.

「自己組織化ペプチド」の技術優位性

自己組織化ペプチドは、人工製品と生物由来製品の良さをあわせ持つ医療用途に適したバイオマテリアル。

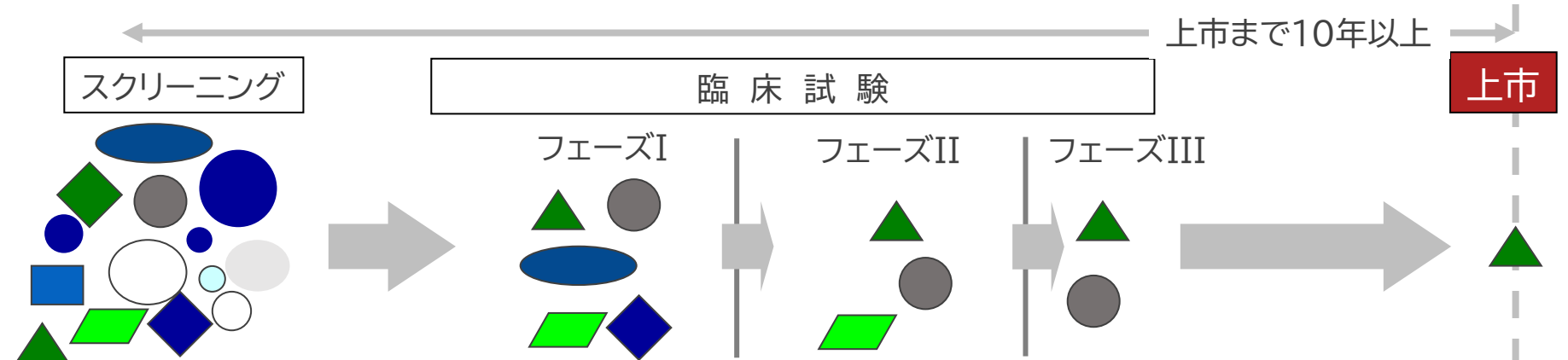
項目		人工製品	自己組織化ペプチド	生物由来製品
安全性 (感染リスク)	狂牛病などのウイルスを含まない。	○	○	×
生体適合性	人体になじみ、炎症などを起こさない。	×	○	○
生分解性	いずれ分解され、体外に排出され、体内に残らない。	×	○	○
拡張性	用途に応じて、様々なバリエーションが作れる。	○	○	×
品質の安定性	同じ品質で、大量に作れる。ばらつきによる不具合が起きない。	○	○	×
例		ポリマー、セラミック、アパタイトなど		フィブリン、コラーゲン、ヒアルロン酸など

自社開発製品のため、収益を可能な限り確保するモデル

医薬品の開発: 臨床試験も長く、上市まで時間・コストがかかる。1つ1つ物質が違うため応用が効かない。

一般モデル

- ・ ライセンスアウトが必須
- ・ 収益の大部分が外部に流出

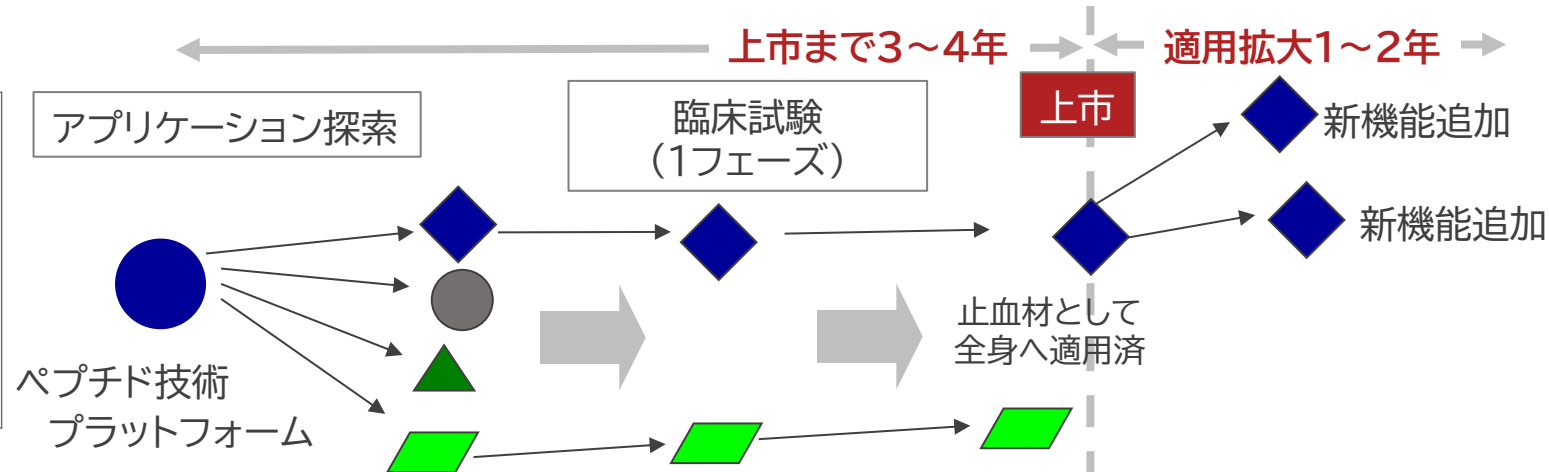


医療機器としての開発: 上市までの開発コストが小さく、さらに適用拡大によりニーズの高い用途を継続追加。



当社モデル

- ・ 自社で上市まで可能
- ・ 既に全身で使われているため適用拡大が容易
- ・ 収益のアップサイドが全て当社に残る



製品のグローバル展開

すでに日、米、欧の三極で上市製品を有し、開発リスクは小さい。
先行地域の成功事例をほか地域に適用し、市場リスクを最小化。



■欧州およびCEマーク適用国

- ・止血材: 上市済み
- ・後出血予防材: 上市済み

■日本

- ・止血材: 上市済み
- ・粘膜隆起材: 上市済み

■米国

- ・癒着防止材(鼻): 上市済み
- ・止血材: 上市済み
- ・後出血予防材: 上市済み
- ・創傷治癒材: 上市済み

本資料の取り扱いについて

本資料は、株式会社スリー・ディー・マトリックス(以下、当社という)をご理解いただくために作成されたものであり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。

本資料は当社の事業及び業界動向についての当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明は様々なリスクや不確かさが内在しております。既に知られたもしくは今だに知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は将来の展望に対する表明及び予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、更に悪いことも有り得ます。

本資料における将来の展望に関する表明は、本資料の作成時点において当社が入手し得る情報を踏まえたものであり、法令または取引所規則により開示義務を負う場合を除き、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。